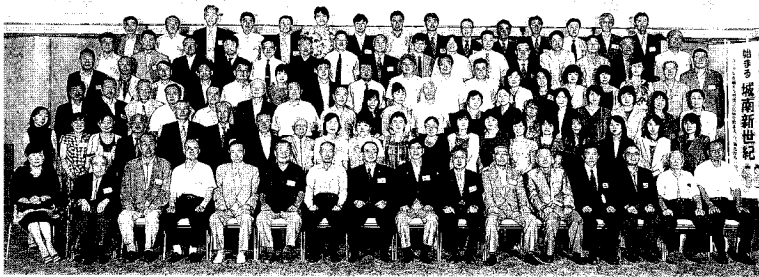


# 旧徳中 城南高 同窓会 報

行 所  
徳島市城南町2-4-7  
旧徳中・城南高校  
同窓会事務所  
TEL(652)0084  
印刷 徳島市下印 徳島市応神町

## 平成20年度 旧徳中・城南高校同窓会 同窓会総会・懇親会報告

「平成20年度旧徳中・城南高校同窓会総会・懇親会」が、平成20年8月13日（水）に阿波観光ホテルに於いて開催されました。午前10時30分からの総会では馬秀夫副会長の司会で加藤副会長の開会の辞ではじまり、木村同窓会会長の挨拶、木村校長の挨拶と続きました。木村校長は、校舎建設の様子や生徒の進路状況・運動部の活躍を熱く説明をしていただきました。次に市橋義治松柏会会長より来賓挨拶を頂戴いたしました。議事については木村同窓会会長が議長となり坂野同窓会事務局長の説明に続き順に一号議案の平成19年度事業報告から、決算報告、監査報告、平成20年度事業案、予算案が可決されていきました。



つぎに、役員改選にうつり、事務局から提案された新役員の皆さんが承認をされました。新校舎落成記念事業・式典準備についても幾つかの意見が出て、今後の検討ということになり議事はおわりました。恒例の各種表彰ですが、今年度最高齢参加賞は昭和19年卒の渡辺博信様、最年少参加は昭和61年卒の東由美さんとなり、木村会長より賞状と金一封が授与されました。続いて長年監事を務められこの度退任をした佐藤直人様に感謝状の披露

があり、後任として新しく監事になった昭和53年卒の北哲也君の紹介がありました。総会の最後に森莊太郎後援会会長より改めて後援会への寄付に関するお願いがありました。総会は無事終わりました。



続いて記念講演にはいり、来年度に実施される裁判員制度について城南高校を昭和49年に卒業をされる護士として活躍されている豊永寛二氏から「裁判員制度について」という演題でのご講演をしていただきました。

全員での記念写真の撮影の後、午後からは懇親会がはじまりました。最高齢参加の渡辺博信先輩より高らかに乾杯のご発声を頂戴し、アトラクションのフラダンスがはじまりました。

お慶び  
◎秋の叙勳◎  
「瑞宝中綬章」  
松浦 馨  
（昭和21年中4年制卒）  
名古屋大学名誉教授  
教育研究功労名  
古屋市緑区東神の倉  
3・107

ました。「わたべのりこフラスタジオ」より9名もの踊り子の方が来られ、ウクレレの生演奏も含め常夏の雰囲気を楽しませてくれました。途中ではフラダンス教室もあり、有志がステージでダンスを教わりました。

級友との歓談で瞬く間に時間も過ぎ、旧徳中・城南高校校歌斉唱になると多くの先輩がステージに上がり、元氣いっぱい校歌を歌い楽しませていました。来年度監事学年を代表し原田吾郎君が来年に向けてのPRの後、最後は53年度監事学年を代表し徳田義博君の方歳三唱で無事お開きになりました。

今年度は例年と同催日時が違い参加人数が心配されましたが、53年卒生（67名出席）の協力の下120名あまりの参加人数で大盛況となり無事監事学年の任が果たせたと自負いたしております。

この場をお借りして、参加いただいた皆様、集まり支えてくれた53年卒の仲間達、資料のデーターを残してくれた前年度監事の隅田先輩、そうして事務局の坂野先生にお礼を申し上げます。ありがとうございます。  
（昭和53年卒  
幹事 大井倫夫）

「瑞宝双光章」  
今井章良  
（昭和11年中卒）  
学校歯科医 学校保健功労 徳島市中通  
町3・8・1

# 「裁判員制度に

## ついて」

平成19年度  
徳島県弁護士会会長  
豊永寛一（昭和49年卒）

今回の講演は、昭和49年卒 豊永寛二先生より、平成21年5月から施行される裁判員制度についてでした。



も当たるのは嫌です）しながら、長年、議論されてきて、ようやく制度として確立した訳ですから、当たった場合には、覚悟を決めて協力していかなければならぬと思います。

ところで、この講演を聞いていて、ある物語を思い出しました。三重県のあこぎ浦というところに、平次という若者がいて、魚を獲ったら死罪であることを知りながら、病の母にどうしても食べさせたくて、漁をして、役人に捕まってしまいます。捕まえた役人のことを村人が情けがなく無慈悲だとのしつた、これがあこぎな奴という言葉の由来だそうです。ここで、村人を裁判員とするなら、平次は無罪かもしれません。しかし、法は法であって、情をはさめば、社会のルールが成り立たないでしょう。悪いのは魚を獲ったら死罪という法であり、病気の母を救えない社会制度にあるのかもしれない。

昔の日本には、武士道があり、善悪を教えました。それが、戦後企業理念によつて、利益第一主義で少しぐらい悪いことをしてもかまわないという考え方も

生まれました。我々一人一人がこの制度に参加し、凶悪犯罪に向き合うことで、善を行うに易く、悪を行うに難い社会を実現させていくこと、それが、この裁判員制度の真の目的ではないかと思えます。

（昭和53年卒  
黒田浩司 記）

### 始まる

#### 城南新世紀

―母校、城南高校発展の  
合い言葉として―  
学校長 木村 潤

私が、母校である城南高校に赴任したのは、昨年の四月一日のことでした。その際には、卒業して以来四十年ぶりに「帰ってきた」という感慨に浸ったものです。あれから一年と八か月が過ぎようとしています。

卒業生というのは、ともすれば自分のいた頃と重ね合わせて考えがちですが、私も赴任当初から、いろいろと「昔」と比べたものです。ただし、その比較は、過去を懐かしむためのものではなく、学校の置かれてある現在の状況を、長い城南高校の歴史の中で捉える

ことによつて、今後の発展の方向を見定めるためのものだったと思っています。その結果、伝統が脈々と引き継がれているなど感じられる面もある一方、ずいぶん変わったなど感じられる面もありました。後者に

注目すると、城南高校も長い歴史の中で、学区制の変遷や学科の新設等によつて、学校の姿が変わってきています。特に、現在の生徒たちが、勉強に偏ることなく、スポーツ、芸術・文

化活動にも意欲的に取り組む、ひじょうに明るく活発な高校生活を送っていることは、私の受ける印象としては、大きな変化でした。さらに、昨年度は、学校の置かれていた状況が劇的に変化する時期にも当たっており、いよいよ学校の新たな発展をめざして邁進すべき時だと思えたものでした。それというのも、着任当初から「城南高校には、新たな風が吹いている！」と感じたように、新校舎の建築や新制服の採用、野球部の四国大会での準優勝等に象徴される部活動での大活躍、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の充実等によつて、以前の城南とは違った発展の道を歩み始めていたからでした。

この新たな発展の徴は、周囲からの期待という面でも顕著に現れていました。昨年度及び本年度の中学生体験入学や公開授業の日には、以前より格段に多くの参加者があり、地域の人たちから期待され、中学生には進路希望先として憧れられる学校となつていることが実感できました。

こういった新しい「城南の風」を自覚し、また、この発展の原点は本校の長い歴史と伝統にあるとの認識にも立って掲げたのが、「始まる 城南新世紀 100年を超えろ」という歴史と伝統を踏まえ、今、新たな一歩を―」です。

これを城南発展の合い言葉とし、この二年間、機会を捉えては、生徒・教職員をはじめ、保護者や中学生を含む地域の人たちにも伝えてきました。それとともに、その実現に向けて生徒

や教職員とともに歩んできたのだ、と思っています。特に、本校生たちが、「①自分たちが起こしている『城南の風』を自覚する。それとともに、②歴史と伝統を再認識する。」ことを目指しました。それによつて、本校の生徒であるという自信と誇りを持ち、十二分に力を発揮してくれるのではないかと考えたのです。方法としては、①に関しては、全校集会での講話や校誌等の印刷物を通じて伝え、訴えています。②に関しては、「城南歴史ミニギャラリー」の開催、講話における語りかけ（三つの校歌、五十八年間続いているFS等について、「幟」（昨年度、合い言葉をともに三十本を作製）の活用等に努めてきました。



幸い、生徒の意気が上がり、学校はますます元氣になっていきます。

今後、生徒たちが、本校の歴史と伝統を踏まえた上で、自信と誇りを持って、「城南新世紀」を実現してくれらるものと信じています。

終わりになりましたが、同窓会の皆様方にも、ますますのご支援をお願いするとともに、ご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

# 裁判員制度

裁判員制度は、国民から選ばれる裁判員が、刑事裁判に参加する制度です。

6人の裁判員と3人の裁判官が、  
ともに刑事裁判に立ち会い、  
被告人が有罪か無罪か、  
有罪の場合どのような刑にするかを判断します。

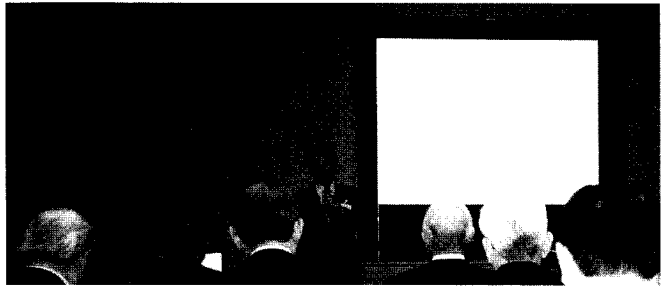
## ■第三十三回 渦の音クラブの集い 会場も新たに

演出に工夫

旧徳中・城南高校同窓会  
関東支部「渦の音クラブ」  
の総会・講演会・懇親会が  
十一月十六日(日)午後一  
時から、今回は会場も場所  
も新たに旧岩崎邸跡の六本  
木の国際文化会館で開催さ  
れた。

今年の関東支部事務局長  
は4月から昭和41年卒の生  
田哲郎さんから昭和35年卒  
の田尻光彦さんに引継が  
れ、会の担当学年の昭和54  
年卒の中川洋子さんから始めと  
する幹事の皆さんの会の運  
営への工夫、努力の跡が今  
回も随所に見られた。総会  
場のスクリーンには、母校  
城南高校の歴史を彷彿させ  
る旧校舎、懐かしい思い出  
の写真等が写し出され参加  
者も感慨にふけていた。

生田前事務局長の司会で  
会は始まり、鹿屋体育大学  
学長に就任された福永哲夫  
会長の一今回は参加者が77  
名と少なめですが、城南高  
校の名物ファイヤーストー



ムの歌も昭和54年卒の幹事  
の皆さんの新しいイベント  
として企画されており、若  
い人にも参加を呼びかけ、

2、3年先には200人位  
の方の参加者があるよう皆  
さんといっしょに頑張つて  
いきたい」との力強挨拶が  
あり、続いて役員の新選、  
会計報告があり承認され  
た。来賓祝辞にうつり木村  
潤学校長が、学校紹介も兼  
挨拶され、「城南高校には  
新しい風が吹いている。運  
動部、文部の部活のみなら  
ず勉強の面でも伸びてい  
る。OB校長として城南の  
歴史と伝統を折にふれ生徒  
に話し、新たに確認させて  
いる。生徒は自信と誇りを  
持つて校歌を大きな声で歌  
うようになった」と結ばれ  
大きな拍手を受けた。木村  
清志本部会長は「最近の城  
南教育の成果の一例とし  
て、昭和17年卒業の東京在  
住の美馬寛子さんがミス・  
ユニバース日本代表にな  
り、7月にベトナムで行わ  
れた世界大会では惜しくも  
入賞はならなかったが、城  
南卒業生としての美しさと  
見識を示したことを紹介。  
仕事の忙しい合間に出席し  
て下さった城南高校後援会  
長の森莊太郎さんを紹介、  
後援会への協力と、同窓会  
への益々の支援をお願いし  
た。

講演会は昭和54年卒業の  
静岡県立大学看護学部准教  
授の西田公昭社会心理学者  
が「マインドコントロール  
とは何か」と題して講演。  
一九九五年に起こったオー  
ム真理教のサリン事件を例  
にあげ、サリン事件の8被  
告のそれぞれの心理的状  
況、教主麻原彰光との関  
係、オウム真理教の教義、  
マインドコントロールの基



本的原理等を通してわかり  
易く説明され、自分が気が  
つかないうちにマインドコ  
ントロールされている恐さ  
を知らされ、「振り込め詐  
欺」の被害者の心理がわか  
り大変参考になった。

懇親会は、昭和54年卒の  
中川洋子さんの司会のもと  
最年長参加者昭和19中同卒  
年青木淳治さんの故郷を離  
れてみると徳島は古野川な  
どの自然に恵まれ人の心も  
暖かい本当に良い所ですよ  
との前置きの後の元気な声  
の乾杯の音頭が始まり、「リ  
ーサラ・スペシャル・ピッ  
グバンド」よりピクアッ  
プメンバーによるジャズコ  
ンボがあり、「A列車で行  
こう」や「枯葉」などのジ  
ヤズの名曲の数々を楽しむ  
ことができ、城南富士や城  
南高校についての城南クイ  
ズが行われ、大いに食べ、  
大いに飲み、和気藹々に談  
笑し、最後はミニファイア  
ーストームということで「開  
校記念の歌」を皮切りに  
「城南健児の雄叫び」など

高らかに合唱し「旧徳中校  
歌」の後、城南高校校歌」  
で締めくくった。

幹事学年の高田穰さんの  
挨拶の後、次の当番学年昭  
和55年卒の荒木幸浩さんの  
「来年も今年に負けず頑張  
りますから是非ご参加を」  
との心強い言葉があり、名  
残を惜しんで幕を閉じた。

(記 同窓会事務局長

坂野栄一)

■2008年

## 旧徳中・城南高校

### 同窓会

#### 近畿支部総会

2008年10月26日(日)、旧徳中・城南高校同窓会近畿支部総会は、J R大阪駅ビルホテルグランヴィア大阪にて、開催されました。

総会は13時より始まり、総会に先立ち、日本学士院賞を今年受賞しました昭和42年卒業の寒川賢治氏より、受賞対象となった研究成果を講演していただきました。

寒川氏の研究は、独自の手法を開発して生体の細胞間情報伝達物質としての脳や内分泌系で重要な役割を担っている新しい生理活性ペプチドを多く発見し、基礎医学のみでなく臨床医学の発展に大きく貢献しました。特に、胃から分泌され、脳に作用して食欲を刺激するグレリンの発見は、注目されています。

これらの内容について、通常は学会や関係者に講演していますが、今回は同窓会という場での講演で、特別にアレンジをしてくれ、我々が理解しやすいようにしていただきました。とりわけ、長生きするには痩せすぎてもいけないとのこと、BMIが22・5くらい

心に残りました。  
BMI＝体重kg÷(身長m単位)÷(身長m単位)  
で、肥満度です。

寒川氏は、城南高校時代はサッカー部のキャプテンで文武両道の見本というべき人物であります。

今でもサッカーファンであり、自分の健康維持のためにスイミングを継続しているとのこと。約1時間の講演でしたが、参加者のみなさんは陶酔したかのごとくアツという間に講演は終わりを迎えました。

その後、総会に入り、大島俊之支部長の挨拶、森一牛本部同窓会副会長挨拶、木村潤校長の学校現状報告、佐野正孝徳島県大阪事務局長挨拶、中谷嘉明徳高県人会近畿連合会会長挨拶とがあり、懇親会へと入りました。



挨拶の中では、木村潤校長の現状報告を聞きたい参加者は多く、今回は時間をかけての熱弁で語ってもらいました。

新世紀城南への熱き思いを、生徒達と創造していく熱意に、参加したみなさんは、感銘を受けたものと思われまふ。

同窓会事務局長にお願いし、懇談に入りました。今年の参加者は、延べ36名でした。

その中で、昭和50年卒業以降の方が6名参加してくれ、これまでにない若手参加となりました。

近畿支部の組織化は、もはや難しい状況であり、野球部の甲子園出場を待ち望んでいるというのが本音です。2、3年後には是非と、期待しています。

懇談最中に、アトラクションへと移り、今年も阿波踊り「大阪天水連」のみなさんが華麗なる演舞を披露してくれました。大阪天水連の連長さんの娘さんは、アテネ、北京のオリンピックに出場した女子トランポリンの廣田遙さんです。

阿波踊りの最後は、阿波つ子なら当然の総踊りです！足の悪い方以外は、本当に総踊りとなりました。木村校長には、連長からのプレゼントまでありました。

ファイナーレは、校歌斉唱です。今年も、3校歌を全て唄いました。

FSで開校記念日の歌を唄っており、甲子園に来たら旧徳中校歌が応援歌とも言われおり、城南高校校歌を加えた3校歌を斉唱しました。初めて唄う方もいましたが、それぞれの意味を噛みしめながら、校歌斉唱を味わいました。

県人会での組織化に加わったため、来年の総会は甲子園出場時に行うこととし、県人会での参集を呼びかけました。

は、2010を予定しています。来年も開けることを少なからず期待しております。

旧徳中・城南高校同窓会  
近畿支部事務局長  
糸田川廣志  
(昭和42年卒)

が適切とのアドバイスは、

次回同窓会

## 母校だより

### 今年の就職状況

県内企業からの求人18件であった。内訳は製造、美容、販売の仕事が主であった。4月当初からの就職希望者は少数であったが、その生徒は見事に希望企業に内定した。なお、県内企業からの昨年度求人は13件、一昨年度は17件であった。

県外企業からの求人は233件と昨年度に比べ半減した。求人があった業種で多いものは、パチンコなどのレジャー関連、フードチェーン、美容、介護、運輸などである。なお、本校における県外の民間企業への就職希望者は、近年ほとんどいない。

公務員試験受験者は2名と少なかった。2名とも消防官志望であり、東京消防庁、横浜市消防官、徳島市消防吏員などの試験を受験した。現時点においていくつかの試験区分で一次合格と横浜市消防官の最終合格の報告を受けている。

### 進学状況

本年度の大学入試センター試験への本校からの出願者は244名と昨年より少し増えました。3年生は1月の試験本番に向けて日々

就職状況は大変厳しくなっているとのこと。ここ数年文系では経済学部（商学・経営含む）に人気がありました。出願までに時間のない私立大学の推薦入試の受験者はこの傾向が続くと考えられますが、年明けの大学入試センター試験を受験する生徒たちは、学力が高い生徒も多いことから、資格取得を考えて出願予定の学部を変更してくる可能性もあります。世界経済の暗転は、生徒の志望動向や就職状況など様々な分野に影響を与え、次年度以降は就職氷河期といわれた90年代後半と似た状況になっていくことも考えられます。

このような時代ではありますが、本校では11月に新校舎が全館竣工し、より良い学習環境のもとでしっかりと勉強している生徒が増えています。今後進学状況は年々良くなっていくことと期待しています。

（吉松勲記）

# 徳中の思ひ

## 1 空しい香り

昭和19年初夏、我々三年生は、森内先生(万特)に引卒され、生徒行進で松茂海軍航空隊に向った。目的は航空隊の隊内見学。正門から四列縦隊で歩調を取り入って行くと、衛兵がサツト整列し、先頭の森内先生に「頭ツ中」と敬礼、先生も悠々と返礼、隊内に入った。予備中尉のテイサンの万特と軽く扱って来たが、今日は仲々立派で少々見直す。

らせたが、コッペパンの山はオート三輪に移され、航空隊に走り去った。残念ながら、暗い失望感だけが残った。

充分食べられぬ若い生徒の鼻先でパンの匂いだけを残して、パンの一かけらも口に入れる配慮もない。少くとも小休止の場所も考えずに、徳中の優秀な先生方に、歴史に残る徳中残酷物語として六十年後の今も腹を立てている。

## 2 バス、SL

入学の時、自転車通学の許可をもらったが、チビで足がつかず危険だということ、バス通学に変更。バス通の場合、座席に座ってはいけないという規則があり、吊皮に手が届かぬ私としては不自由さは変わらず隣の鈴江司郎君と相談、徳島駅から二軒屋駅まで汽車通することにし、身長が伸びて自転車に乗れるまで続けた。汽車に乗って大人の気分を味わえたのである。

## SLに縁が出来たのは、

終戦直前である。

JR線が米軍機に攻撃されたので、列車を警備することになったが、陸軍は要員不足のため中学生が重機を持って任務に当たることになった。勤務について見ると、一日30分ほど重機の訓練をすると、あとは自由で、重機の横で隊長の見習士官に英語の歌をリードしてもらって合唱していた。

この時教えてもらったのは、フォスターの作曲でOLDBLACKJOEなどで、今も懐かしく思い出す。

終戦後、鳴門から徳島へ

通学していたが、殺人的混雑で客車に入ることは至難の技、手すりや窓にぶらさ

がる、屋根に乗るなどした。その上石炭の燃えかすが背中に入り、丁度ヤイトをしている様なもので時にはシャツが燃え出したが、手が使えず駅に着くまで辛抱したこともあった。今は、SLファンが沢山いるが、私の体験を味あわせてららうと言いかと思つてい

## 3 原爆の授業

四年の春、箕浦先生の物理の授業だった。なぜ原爆の話になったかは忘れたが、原子核の構造、核の中に巨大なエネルギーが内蔵されていること、それを上手に使用すれば地球全体の幸福になるが、使い方を誤まれば地球が壊れる。これからの人類はこの原子力の使い方を極力重視しなければならぬという講義だった。

広島に原爆が投下され、新型爆弾とかあいまいな表現がなされている前に、徳中ではこの様な素晴らしい講義されていたことを大変誇りに思っている。

現在、徳中、そして穴熊

校長の再評価が行なわれているが、私には穴熊先生の思い出は殆ど無い。朝の校庭の訓示も最後尾で全く聞こえず、授業中は「西條鼻をたらすな」と大声で叱られたのが唯一の対話である。同級生でも穴熊氏と話したことがある人は居ない。しかしどの会合でも徳中、穴熊の話が出て、我々は穴熊の弟子なんだなあと感じさせられる。今年からクレメントのホテルで毎月十七日に同級生の会が開かれるとのことだ。どんな穴熊物語、徳中史談が出

(昭和22年中同  
西條史朗 記)

# 同期の集い

## 2008年度

### 旧徳中・徳一高 同窓会

旧制徳島中学校から、城南高等学校に至る卒業生の中で、最も特異な存在が私たちです。

つまり昭和23年3月に、旧制徳島中学校を5年生で卒業し、徳島第一高等学校に編入。翌、昭和24年3月に、同校を卒業。そして、その年から城南高等学校が始まったわけです。

年齢的には、立派な(?)後期高齢者。そんな連中が今年も同窓会を開きました。「今年も」といいますのは、このところ5年連続で同窓会を開いているからです。

集まったのは、27人。看板には、「旧徳中卒業60周年記念同窓会」と書きました。平成20年11月14日(金)、場所はホテル・グラインドパレス。

やっぱりこの年になりまして、不参加の理由はほとんどが「体調不良」です。

も、参加者は全員元氣満刺。酒盛りが始まって10分後には、「なあ」と、「おい」と、「お前」など、60年前の言葉が飛び交いました。

近況報告の後は、特別イベントとして、伊藤明美さんのピアノ・ソロで、懐かしの映画音楽を数曲。そして、打ち上げはもちろん、山田耕筰氏作曲による「徳中校歌」を声高らかに歌い、「ほなまた、来年」を約しました。

(文責：高橋康生)

写真は、元氣いっぱい参加者。27人中、9人は県外から。

## 2008年度 旧徳中音楽部 同窓会

発足は昭和21年4月。音楽部といっても、楽器は何もありませんでしたので、仕方なく「男性コーラス」に専念せざるを得ませんでした。指導は、ゲーヤン(小串先生)と、萩原稔部長。

特に萩原氏は、どこからともなく、クラシックや、ポップスや、タンゴ、シャソンなどの名曲を仕入れてきて聴かせてくれ、それが部員を魅了してしまつたのです。

20年ほど前から、アトラダムに同窓会を開くようになりましたが、そのほとんどは東京。3回に一度くらい、徳島で行っています。

今年も、11月17日(月)、午後1時に東京・六義園へ集合。続いて後楽園へと、紅葉狩りに出かけました。夜は新宿でしゃぶしゃぶに舌鼓を打ちながらのトーク&トーク。もちろん、昔歌った懐かしい曲を、全員がハーモニイで流すという



劇的な場面もあり、あつという間の3時間でした。

(文責：高橋康生) 写真は、柳沢吉保の庭園で名高い六義園。残念ながら、ちよつと早い紅葉狩りでした。



城南三六六年卒

同窓会

平成二〇年三月二二日、ホテル白水園にて、城南三六卒業同窓会が開催されました。「学窓を巣立つてから早や四〇有余年(入学以来五〇年) 社会人としての活躍も一段落した現在、もう一度青春時代に立ち戻り、旧友を温めようではありませんか」との本庄会長長の呼びかけに答え、平成十五年の東京開催を上回る、八十四名の同窓生が全国から参集。四人の恩師のご参加も得て盛況裡に開催出来ました。

同窓会前日には、「17ラシック」でゴルフコンペを行い、一〇名が参加しました。スコアーはともかく「六五歳にしては良く飛ぶ」などとお互いの元気を確認。優勝はF組の古井君でした。また、当日の母校訪問企画には、三〇数名が参加し案内を受けました。

入学当時のつぎはぎガラスの木造校舎のおもかげはすでにありませんでした。

同窓会は最初に、物故の友に黙祷し、冥福を祈りました。会長の挨拶に続き、居上先生、富島先生、富永先生、浜口先生から個別に饗饌たるスピーチを頂き、さすがに我等が恩師と感服。記念撮影では誰が生徒か先生か?の白髪頭や染め頭、染められない頭が並びました。あとで記念写真に個人名を付ける作業に広瀬君が悪戦苦闘しました。

懇親会では、最初に、中野君の「どじょうすくい」をベースとした絶妙のパフォーマンスが緊張気味?の会場をおおいに沸かせ雰囲気を一気に盛り上げてくれました。参加者の近況報告

「入、こんな日々を過ごしています」では時間短縮のためにクラス代表から発表するとの決め事はいとも簡単に破られ、今や時間の拘束から解き放たれた老人パワーが会場で炸裂し、司会を困惑させました。「みんな



男前節」の作者の実弟、福本君が歌唱リーダーの田中君とともに壇上から歌をリードしました。

かつ語り、かつ飲み、かつ歌い、青春の日にスリッブしたひと時はまたたく間に過ぎ、校歌斉唱で区切りをつけ、三年後の再会を約束して同窓会はお開きとなりました。

ご参加いただいた先生方、遠路より参加の皆さん、ありがとうございました。会場・宿泊・打合せ場所、新聞君の「白水園」の皆様、いつも親身なお世話をありがとうございます。そして、会長をはじめ、私も含めた今回の幹事団の皆様、ゴルフ、母校訪問、卒業時の写真の入った各人の名札など、よく出来たと自賛しましょう。本当にご苦勞様でした。(杉本敏彦 記)

第1回

マスターズ甲子園 徳島大会

「あのときの、あの一球が」という想いをたぶん誰もが持ったまま終わってし

まった甲子園への夢。その一球を取り戻せるチャンスが来ました。しかも母校のユニフォームを纏って。それがマスターズ甲子園です。平成16年から始まったこの大会がついに徳島で予選を開催したのです。各校の野球部OB OGが集い、地区大会優勝校は甲子園でプレーできるといふ、まさにかつての高校球児にとっては夢のような大会です。県下高校野球発祥の地とされながら、未だ甲子園の上を踏んでいない我が城南高校。3月から県内外の野球部OBの皆様にお声掛けし、5月に城南高校野球部OB会が発足しました。そのうち、大会に出場する城南OBクラブは、昭和55年卒の先輩から今春卒業したばかりのOBまで総勢40名。



月9日。記念すべき第1回徳島大会(アグリあなんスタジアム)は、我が城南OBチーム主将谷本貴広(平野手(平5年卒)の選手宣誓で幕を開けたのです。その開幕戦、対日和佐高OBとの戦を13-2で見事勝利。校歌を歌うことができました。しかし、翌日の2回戦。若い戦力を整えた東工大業高OBに苦戦し、一時は9点差を追い付いたものの延長タイブレークの末、13-16で敗退しました。しかし、甲子園への夢はまだ続いています。10月12日に行われた第1回優勝校徳島商OBとの練習試合は12-9で勝ちました。城南OBクラブは今も練習も続けています。そして、ともに夢を追いかけるOBの皆様のご参加を心待ちにしております。(昭57年卒 立石剛 記)

## 事務局より

### 新校舎ほぼ完成

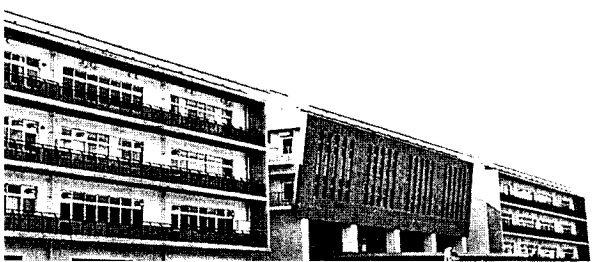
#### 同窓会事務室移転

新しく建て替えられていた西校舎が、11月中旬電話工事等を残してほぼ完成。新校舎での授業が始まっている。それにもない、同窓会事務室も新校舎西棟一階に移転し、住所も城南高校と同じ徳島市城南町二丁目2番88号に変更になる。

### 校門横土地

#### 等価交換について

同窓会総会でお計りした校門横の土地約60坪について、地権者の方に等価交換の件で、木村清志同窓会長、木村潤校長、加藤城南高校事務課長、同窓会事務局長の坂野の4人でお願いががり、ほぼ了解いただき、交換の同窓会館の敷地を見ていただいたのですが、車の進入路が狭いことなどの理由で残念ながら不調に終わった。いろいろとお竹折りいただいた皆さんには本当にお世話になりました。近い将来何らかの形で希望がかなうことを願っています。



参加した選手の皆様と、応援して下さいました皆さんです。なお、その晩有志で早速反省会を行い、来年は必ず一勝するということで大いに氣勢を上げた。美女の応援団にも反省会に参加して欲しいとの声もあつたとのことです。

(観戦者城南富士夫)



### 第4回中馬野球大会

#### 参加者名簿

出場選手の方  
 坂野榮 (昭和34年卒)  
 木村清志 (48)  
 長澤誠一郎 ( )  
 森生 ( )  
 粟飯原治仁 (51)  
 長岡義典 ( )  
 西角彰良 ( )  
 福井撰哉 ( )  
 森岡誠二 ( )  
 立石剛 (57)  
 佐藤雄大 (59)

#### 記録写真係

小川佳晃 (昭和56年卒)  
 応援に来られた方  
 前坂敦己先生、岡島安次先生、松浦利彰先生

本田耕一さん (昭和49年卒) 船越降子さん、城野あさ江さん、大西利津子さん (以上昭和51年卒)

球」を連打され、3点を失ったが、以後ゆるい球に切りかえ得点を与えなかった。攻撃面では、その裏に1、2番が連打したが、次打者が低い球に手をだし、ショートゴロでダブルプレー。チャンスの目をつみ取った。以後、高目の球をうまく打ち好機を作るが、力みがちで好機に凡打、ワンバウンド捕球の相手の野手の好手備にもはばまれ、無得点に終わった。

これからの課題として、ピッチャーはゆるい球を生かすこと。打者は、自主申告を生かし、高い球を要球し、胸もとの球を確実にミートすること。守備面では、内野手はワンバウンドで確実にフォファストへ送球すること。外野手はフライはワンバウンドで捕球すること。以上のことを心がければ、力は接近しているので多分来年は良い結果が得られると思う。

城南高校のグラウンドでしたこともあり、岡島安次先生、前坂敦己先生、松浦利彰先生が、お忙しい中、応援にかけて下さった。また、昭和49年卒の本田耕一さん、昭和51年卒の船越降子さん、城野あさ江さん、大西利津子さんの3人の美女も黄色い声で応援を送って下さり、選手一同ハッスルで力み勝になったのかも。現役生の歓声の中、最終回、ツアアウト、

参加されてみればいかがでしょうか?そして、記念すべき初勝利を味わってみませんか?  
 (昭57年卒 立石剛 記)

### 観戦記

#### ワンバウンドの

#### 捕球・送球を

今年の大会では、一回表に打ごろの球(かなり速い

ん、バットやグローブ、シューズまで独特で、これには野球部OBの私もかなり苦戦を強いられました。



さて、過去3回は全て脇高OBに敗退している城南OB。「ホームで記念すべき初勝利を」を合言葉になり気合いの入った試合でした。そのせいか、初回に3点を先取されたもののその後は引き締まった展開に。しかし、チャンスなかなかものできない。あと一本が出ない。もどかしさの中、次第に脇高にペースを握られ、結局善戦むなしく0-7で4連敗を喫してしまいました。

現在は50才代の先輩の皆様が中心にご活躍されている城南OBチーム。その先輩方の躍動感に少々押しされながら私は今回初めて参加させて頂いたのですが、なかなか楽しいスポーツだと思えました。年に一度の大会ですが、皆様もぜひ一度

野球とソフトボールのルールが違うように、この中馬野球にも独特のルールがあります。投手はソフトボールのように下手投げ。打者はストライクゾーンを自主申告で、打球はワンバウンド捕球でもアウト。野球経験者なら誰もが戸惑うようなルールです。もちろん

## 第4回 中馬野球大会 城南高校グラウンドで

ベースボールを野球と誤った旧制脇町中学の中馬庚校長にちなみ、明治時代の野球を再現した「第四回中馬野球大会」が11月15日城南高校グラウンドで開催されました。毎年、城南OBと脇町高校OBの間で対戦し、今年で4回目を迎えたこの大会ですが、城南高校で行われるのは初めてのことで

野球とソフトボールのルールが違うように、この中馬野球にも独特のルールがあります。投手はソフトボールのように下手投げ。打者はストライクゾーンを自主申告で、打球はワンバウンド捕球でもアウト。野球経験者なら誰もが戸惑うようなルールです。もちろん